

経済は地理から学べ

代々木ゼミナール地理講師 宮地 秀作 ダイヤモンド社

地理とは「地球上の理(ことわり)」である、地理が分かれば現代世界が見えてくる。「東大地理・センター地理」等の講座を担当する実力派、講義は9割以上の生徒から「地理を学んで良かった」と大好評、生徒アンケートは代ゼミ講師1年目の2008年度から全国1位を獲得し続ける。サテライン放映講座・対面授業合わせ1週間で2千人以上の生徒を指導。

(はじめに)

地理が分かれば経済ニュースがもっとわかる！

- *なぜトランプ大統領はTPPから離脱するのか？
- *なぜ土地も資源もない日本が経済大国になれたのか？
- *なぜ中国は2015年に1人っ子政策を止めたのか？
- *なぜインドの若者はIT技術者を目指すのか？
- *なぜ日本はロシアとの経済的結びつきを強めるのか？

地理とは～地形や気候だけでなく農業・工業・貿易・交通・人口・宗教・言語・村落・都市に至るまで現代世界で目にする「ありとあらゆる分野」を学びます。

- *経済とは、土地と資源の奪い合いにある。有限だからこそ需要と供給によって価値が決まります。

尖閣諸島は日本固有の領土、しかし1969年～70年に国連が行った調査により大量の石油の埋蔵が確認されると、いきなり中国や台湾が領有を主張し始めた。

{ 序章 経済をつかむ「地理の視点」 }

- *自然～アイスランドに学ぶ「地理と経済」テーマは「自然」「スケール」「資源」「距離」の4つ。自然・地理という分野では自然環境の地域性を学び人間の生活が見えてきます。例えば北海道と沖縄では衣食住の全てが異なり地域的特性を知ればその暮らしをより深く理解できるようになる。

アイスランドは人口約33万人、国土面積10、3万km²多くの火山があり地熱発電が行われ総発電量の26%平均気温10度C以下、氷河の浸食でU字谷が多く高低差を利用した水力発電は総発電量の74%と自然エネルギーだけで電力100%、その安い電力でアルミニウムを生産、輸出品目の第二位、国民一人当たり電力消費量は5万キロワット強で世界最大(2014年)

- *良い土地とは～日本の国土面積の20倍のオーストラリアは国土の60%近くが乾燥地域で居住可能な地域が限られているので

- 「国土面積が広い・雨が多い・鉱物資源に恵まれる土地が我々にとって良い土地」と
- * 規模を変えて経済を見る～スケールメリットでは鉄鋼業は大規模都市近郊で需要が大きい、輸送のコストが小さくなるので千葉市や川崎市の沿岸部に工場がある。又鉄鉱石や石炭等殆ど輸入の為便利がよく、且つ冷却用水も得られる地域に向いている、世界スケールで見れば人件費の安い国で生産され且つ自由貿易協定を結んでいけば無関税で輸出できるメリットも加わる、スケールを正しく捉えると経済が見えてくる。
 - * 資源の奪い合いが何故起きるのか～世界の水資源「包蔵水＝水資源の内技術的・経済的に利用可能なエネルギーの量の事」を見ると ① 中国 ② ロシア ③ 米国 ④ ブラジル ⑤ カナダの上位五か国だけで世界の51%、更に 10 ヶ国迄加えると世界の三分の二と偏在性が大きい。
 - * 経済は「4 つの距離」で動いている～「物理・時間・経済・感覚」時間を取るか・お金を取るか、貿易では単価の安い物は船で、高いものは飛行機で。感覚面では米国の物理的距離は遠いが入手できる情報の質量ともに身近な存在、逆に中央アジアのキルギスやタジキスタン等と感覚的距離は遠い。

{ 第1章 立地～日本の経済戦略は「資源の輸入国」で先読みできる }

- * 今後日本にとって重要な地域は～日本のエネルギー自給率は原油 0、3% 石炭 0 天然ガス 2、6%「原油」中東に依存しつつも近年はロシアからも、戦前の 1935 年の時に最大の輸入国は米国で65、4%依存していた、近年は OPEC に依存84、9% ロシア10%近く。「石炭」頼りはオーストラリア、次にインドネシア(輸入の65%依存)、ロシア、カナダ、米国、中国。「天然ガス」需要が増え今後ますます重要に輸入の際に液化して(LNG)液化天然ガスとして輸入(天然と比べて体積が約 600 分の一に減少)輸入相手国はオーストラリア、マレーシア、カタール、ロシア、インドネシア、アジア首長国連邦、ナイゼリア。東日本大震災で原発が止まり火力発電用燃料として 2010 年の LNG 輸入約 7 千万トンが 2014 年 8815 万トンへ特にロシアからは約 6 百万トンから 845 万トンへ大きく増えている。「鉄鉱石」あらゆる産業の基礎資源であり最大の産産資源＝世界の産出量は14、8 億トン～日本への輸入相手国はオーストラリア、ブラジル、南アフリカ共和国、カナダ、インド、ロシア、ウクライナ等
- * 日本の真のパートナーは～日本の資源輸入国の重要性それは海上交通路として最重要な東南アジアとオーストラリア、又原油や天然ガス等ロシアへの資源依存が急速に進んでいる、一方では北方領土問題もあり平和条約が結ばれていないまま民間の経済交流は拡大。
- * 地の利を生かした「インドのシリコンバレー」は超難関！～インド工科大学（16ある国立大学の総称）の入学試験は定員 9590 人に対して約 53 倍で 98%が涙を呑む卒業生は米国で 1400 万円の年収も・・・

* ロシアとヨーロッパの経済的つながり～ロシアの最大の輸出国はオランダで「原油」なぜか？ それはヨーロッパ市場へ供給する玄関口がオランダだから・世界最大級の石油コンビナートが林立ヨーロッパ最大の港もあるから原油を石油製品に加工してライン川～ドナウ運河～ドナウ川を通じてヨーロッパ各地に輸送・輸出相手国は一位ドイツ、二位ベルギー、三位イギリス、四位フランス。

* イギリスとオーストラリアの意外な接点～1828年迄イギリスの植民地として機能し多くの囚人達が移民し農牧地を開拓、現在羊は7559万頭、羊毛生産量21,6万トン是中国に次いで世界二位輸出量は21,6万トンと世界最大、1851年金鉱が発見されて就業機会が増え中国人移民も増加1888年には中国人移住制限法を制定、これのちに非白人への排除政策「白豪主義」でオーストラリアの国是の背景1975年に人種差別禁止法制定で多文化定義の始まり、最大の貿易相手国はイギリスでしたがイギリスがEU加盟によりヨーロッパに経済的意味を見出したことから1989年に時のホーク首相の提唱で日本・オーストラリア・ニュージーランド・米国・カナダ・韓国とASEAN6ヶ国でAPEC(アジア太平洋経済協力機構)が発足しイギリスとは別々の道を歩むキッカケに。

* 経済発展のカギは低賃金？

～先進国スペインの“地の利”先進工業国の多くは最大輸出品目が「機械類」しかしスペインだけ第一位は自動車、それは二つの工業化政策による

- ① 輸入製品を国産化して自国産業を育てる
- ② 外国企業と協力して工業製品を輸出する

1986年ECに加盟してヨーロッパ有数の自動車生産大国として発展、当時はドイツ・フランスに比べ比較的賃金水準の低い国で両国は自動車企業がスペインに多くの工場進出で飛躍的に発展、その後EUに東ヨーロッパ各国が加入し賃金水準の低さに奪われ2004年以降減少～スペインは「戦い方」を変えた～大衆乗用車の生産は東ヨーロッパに譲り「非量産型の高品質小型車」やミニバン等の多目的車両の生産にシフト、ヨーロッパでの自動車生産拠点の地位を保っている。

* インド、タイ、メキシコ「最強の自動車生産体制」を探る～地の利を生かすかは国次第「インド」はイギリスから独立すると国家主導の経済体制下で豊富な資源と国内市場を背景に輸入している工業製品の国産化を進めた。自動車産業はタタ財閥、マヒンドラ財閥等中心に発展、1980年代経済の自由化でスズキやホンダも参入して大きなシェアを持った、スズキは国営企業と協力して最大のシェア、2000年以降は外国企業の参入が増え大幅な規制緩和を背景に100%出資で参入したヒュンダイ(韓国)はシェアを伸ばし現在第二位、インドは中間層への自動車販売が可能で、その人口約3億3千万人と米国の人口に匹敵する規模の市場がある。

「タイ」は海外自動車企業に投資恩典を与え完成車輸入増加で輸入赤字が深刻化～部品国産化政策を導入・育成し東南アジア最大の自動車生産国となり

ASEAN 域内への輸出促進。「タイ」は日系自動車企業にとって欠かせない生産拠点。「メキシコ」はアメリカ特化の自動車生産～2013 年生産台数 305 万台の内 242 万台輸出でその割合は79、3% メキシコへの海外自動車企業の進出が進んだ理由

① 日・米・独に比べ低い賃金水準と人口 1 億 27 百万人と多く、安い労働力が豊富
② 米国と地続きの地理的優位性と中南米諸国への輸出も容易、更に太平洋にも大西洋にも面しアジア・ヨーロッパ市場へのアクセスも容易

③ 45 ヶ国以上と自由貿易協定を締結、日本企業はメキシコで作って米国に輸出すると関税がかからない、但し中国・インド・ブラジルの台頭で何れ限界が来るので成長のカギは 1 億 2 千万人の人口大国の国内市場、又高級車市場への参入も

* 経済大国のキーワードは「一位機械類、二位自動車」では輸出統計がそうではない先進国である中国・仏・インドの経済戦略では「中国」は一位機械類で二位衣類（イタリアの様なブランド品ではない）中国は綿花の生産で世界最大で安価な労働力もある、又綿花輸入も世界の52、2%を占めている。「フランス」が貿易赤字国になる理由～世界で大型ジェット機を生産している企業はボーイング社（米）エアバス（1970 年に仏と西独共同出資後に英・スペインが加わる、本社は仏）仏にはルノー社という世界的に有名な自動車産業があるが輸出額では航空機の方が多く車は輸出第三位しかも輸入超過の貿易赤字国（飛行機部品を数多く輸入）「インド」は石油製品とダイヤモンドの国～原油需要は非常に大きく輸入の第一位で依存度は85%と中東の産油国とも近く、これを原料とした石油精製産業も盛んで輸出品目の第一位、インドは「ダイヤモンドの国」として有名、ユダヤ人が大きく関わり採掘・加工・流通で世界的に有名なデビアス社はユダヤ人が作り、そしてイスラエルの輸出品目の第一位もダイヤモンド29、8% インドの輸出品目第二位はダイヤモンド

* 北半球の重要拠点アラスカのアンカレッジ空港が持つ地理的な優位性～冷戦時代中継基地として栄えたアンカレッジ空港は東京からアラスカ（給油）更にヨーロッパへ空港内にはうどん屋・寿司屋等あり買い物や食事を日本人が多く楽しんだりして中継基地として重要だった～冷戦後、便は減ったが日本とソ連の交渉でソ連上空を飛ぶシベリアルートが開設され 1980 年以降は飛行機の性能が向上アンカレッジ空港に寄航する便は益々減少、一方では 24 時間体制で貨物便の離発着が可能な基地へと生まれ変わり北半球のあらゆる都市に短時間で航行可能となり貨物便のハブ空港としての地位を担うようになった。

{ 第二章 資源～資源大国は声大きい }

* 水道水が飲める国＝資源大国としての日本～地球上の水の内97、5%は海水で、残りが陸水で内訳は氷雪・氷河が68、7% 地下水30、1% 地表水2、2%内河川水は0、006%現在世界で約7億人の人達が水不足の生活、20世紀は「石油の世紀」で争いが絶えなかった、しかし 21 世紀は「水の世紀」です。 P 4

途上国の工業化や生活水準の向上は水需要を押し上げています。

* 水道水を飲めるのは世界中で 15 ヶ国しかない(国土交通省)

石油国サウジアラビアの悩み～年間降水量59mm 砂漠気候で遥か地下に存在する帯水層迄掘りぬいて水を利用し穀物迄自給、しかしそれから 20 年この帯水層は枯渇しつつあり穀物生産は年々減少の一途、淡水化水の利用拡大、穀物を海外依存して石油価格を上げて「目先の利益」を求めると穀物の禁輸措置の可能性も

* 資源戦争！ 中国 VS オーストラリア・ブラジル～中国の高度成長が見られた 2000 年代に粗鋼の生産量拡大 2015 年は 2000 年比6、3 倍、中国は国内に豊富な鉄鉱石産出にも拘らず 2015 年過去最高の輸入量でその多くがブラジルやオーストラリアから中国の鉄鉱石は鉄含有量が低く30%採掘コストも高くなるので外国産のモノに指向「オーストラリアとブラジルによる中国潰し」両国の鉄鉱石は鉄含有量が61、9%と63、6%と高く中国と比べ採掘コストが安いので価格の下落というリスクを取りながらも増産によって世界シェアを拡大させ寡占化を進めることが狙い。

* 大国ロシアを悩ませるチェチェン共和国の“声”～キーワードは石油利権と宗教対立、チェチェンはロシア領内の国で宗教はイスラム教 1922 年ソ連邦下に於いて自治州が成立するも形だけ 1991 年独立を宣言、1994 年ロシア連邦軍がチェチェンへの軍事進攻するも壊滅 1996 年事実上の独立を獲得、1999 年チェチェン独立派勢力がロシア連邦を構成するダゲスタン共和国に侵攻 2009 年に沈静化、チェチェンは原油の産出国で経済的自立が可能でパイプラインが領内を通過することが経済的自立を後押ししている。

* 資源大国ブラジルに見る「安定資源」とは？～輸出の第一位は鉄鉱石、ボーキサイト鉱床が発見された 1967 年アルミ地金として日本に輸出することになり大量の電力を必要とすることになり日本の ODA で建設されたのがツルクルイダムでダム湖は琵琶湖の約3、5 倍アルミ地金の精錬はアルプス社(日本 49%出資)で生産の約半分を日本に輸出(日本輸入の約10%)ブラジルを支える水力発電＝年間降水総量は世界最大、国の発電量の四分の三は水力発電「ネックは原油」で常に原油輸入国、領内の埋蔵原油量は 94%が海底油田で採掘コストが高い。

* EU に加盟しない実力国ノルウェーの正体～他人から支配されることを嫌う気質と独立独歩できる 3 つの理由

- ① 水産業～暖寒流が会合する海域で「好漁場」且つフィヨルド(入り江)が発達し水深が深く入り江の奥までが長く、波が穏やかで冬も凍らない不凍港が多い
- ② 水力発電～山岳国家で水力発電の割合が96、21%で電気代が安い(世界平均半分以下)人口約 521 万人と少なく原油や天然ガスの国内消費は非常に少ない
- ③ 強みは原油と天然ガスの生産が多い～原油の一人当たり輸出余力は14、9 トンでクウェートに次いで多く、天然ガスは2、1 万 m^3 (カタールは 61 百万 m^3 と圧倒的なるも他の国より断然多い)

ノルウェーが EU に加盟しない理由～デンマークやスウェーデンとの同君連合を経験したことから自国の独自性にこだわりがあり、それに土台がある。

* アフリカ大陸のダイヤモンド国家ボツワナの「3つの地理的悪条件」とは？

- ① 近隣諸国と比べて賃金水準が高い
- ② 内陸国で輸出に圧倒的に不利
- ③ 人口約 226 万人と市場が非常に小さい、肉類・観光・金融部門に力を入れているがダイヤモンドに次ぐ産業に成長しているとはいえない

アフリカ大陸 54 ヶ国の内国民一人当たり GDP は 6361 ドルの中所得国(2015 年)で赤道ギニア、セーシェル、モーリシャス、ガボンに次ぐ。南部に位置する内陸国、南アフリカ共和国は北隣、輸出品目は一位ダイヤモンドで二位はニッケル鉱、三位機械類、四位銅鉱、五位肉類、六位自動車、七位金(非貨幣用)八位無機化学物、九位鉄屑、ダイヤモンドの輸出割合は 81.8%、1996 年にイギリスから独立、政治的安定性が非常に高い国で汚職には厳しい国、ダイヤモンドは希少な鉱産資源で 2050 年頃には枯渇に近づく為他産業への成長が課題。

(後編へ)